

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600170		
法人名	社会福祉法人 健仁会		
事業所名	グループホーム咲花 南ユニット		
所在地	山口県山陽小野田市大字厚狭字埴生田503番1		
自己評価作成日	平成26年3月25日	評価結果市町受理日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく 共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・の理念の基にその方らしい生活が送れるように支援しています。自然に囲まれた活気のある地域に立つ複合施設の4階がグループホームになっています。4階には空が見えるウッドデッキの中庭があり、大きな窓からは朝日や夕日が入り、桜並木等季節を感じられる景色が見渡せ、開放的な空間となっています。地域とのつながりを大切にし、自治会に月に1回事業所便りを回覧させて頂き、事業所の行事にも地域の方へ参加の声をかけをし、年々協力も深まり年末餅つき大会にはお手伝いの参加が増えて来ています。季節ごとのお祭りや自治会のソーメン流し、地域の保育園の餅つき大会等の地域行事にも積極的に参加しています。また、ボランティアサークルによるコーラスや踊りを事業所へお招きし、人とのつながりが途切れないように利用者様の生活支援をさせて頂いています。利用者様の「できる力」や「意欲」を大切に、洗濯や掃除と一緒に頂いたり、利用者様同士の声の掛け合いで「歩こう会」や「体操の会」を始められたり、自発的に活動されています。様々な場面で、安心・安全に配慮しながらお一人お一人が主役となって頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の行動目標である「横に座る、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくりと穏やかに」という4つのケアの柱を、職員全員が常に意識され利用者のケアに取り組んでおられます。運営推進会議で地域行事の情報を得られ、地域の季節毎の祭りや保育園の運動会や納涼祭、餅つきなどの行事に利用者と職員が一緒に参加しておられる他、法人の紫苑秋祭りや事業所行事の餅つき、ピヤホールなどに多くの地域の人やボランティアの参加を得られ、近所の人から米や野菜の差し入れがあるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように日常的に地域との交流に努めておられます。年3回の家族会行事や利用者と一緒にの日帰り旅行、年2回の家族アンケートなどで家族からの意見や要望を聞いておられ、職員間で共有して対応され、サービスの向上に取り組んでおられます。外部評価では、自己評価に全職員で取り組まれ、項目の達成目標を職員個々に立てて取り組んでおられ、1年間の反省をすることで職員の資質とサービスの質の向上につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600170		
法人名	社会福祉法人 健仁会		
事業所名	グループホーム咲花 北ユニット		
所在地	山口県山陽小野田市大字厚狭字埴生田503番1		
自己評価作成日	平成26年3月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの4つの柱「横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに」を支援の方針とし、接遇研修では挨拶や言葉使いを学び尊厳を大切に利用者と日々接しています。今年度、法人の研究発表の場でBPSDと排泄の関係についてを発表しました。施設1階には有床診療所があり、週1回の訪問診療と訪問看護、月に4回の歯科医等による口腔ケアやご要望によっては療士によるマンツーマンの医療リハビリやレッドコードを使つての運動療法も受けられ様々な医療ニーズに対応できるようになっています。看取り介護にも対応しており、理念、ケアの4つの柱の基に最期まで住み慣れた場所でその方らしい生活が送れるように専門職との連携も密に取りながら支援させて頂いています。今年度初めてお一人の看取りをさせて頂きました。また、スタッフ全員が応急手当推進委員会による急変時等の対応についての訓練を受けるようにしており、利用者様の安心・安全な暮らしを支えています。年3回の家族会や年2回のアンケートの実施、事業所行事への参加やケアの相談等、ご家族とも近い距離で利用者様の生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議時に皆で唱和したり名札やスタッフルームに理念を掲示したりケース記録等の用紙にはケアの4つの柱を印字しいつでも確認できるようにしている。日々の寄り添いの中やケアプランの中でも理念の実践をしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を事業所内に掲示し、職員の名札の裏側に記載している。毎日の朝礼時や月2回のユニット会議時に唱和し、共有している。「横に座る、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくりと穏やかに」という4つの目標をケアの柱として、理念の実践につなげている。		
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆に優しく 共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・をグループホームの理念として掲げている。朝礼時や会議の始めには皆で理念の唱和を行いスタッフルームにも掲示し共有している。日々の寄り添いやケアプランの中で理念の実践を行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のお食事処で誕生日会をしたり地域の夏祭りや秋祭りお雛さまめぐりに出かけたりしている。法人のお祭りには地域の方をお招きし利用者様も参加し楽しく交流していただいている。	自治会に加入し、地域の祭りやソーメン流し、寝太郎祭り、納涼祭、天神祭り、保育園行事（節分、納涼祭、運動会、餅つき）に利用者と職員が一緒に参加し交流している。法人主催の紫苑秋祭りには事業所からも屋台を出店し、地域からたくさんの人の参加がある他、事業所で行なうビヤホールや餅つき大会に参加する人やボランティアで来訪する人（歌、日本舞踊、ハンドベル演奏）と交流している。近所の人と、散歩時に挨拶を交わし、旬の野菜や米の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節のお祭りや商店街のお雛様めぐり、近所の神社のお祭りや地域の保育園の餅つきや節分行事等に積極的に参加をしている。また、近所のスーパーや本屋を利用したり近くのファミレスにデザートを食べに行ったりしている。自治会の総会に出席させていただき、ホーム便りの回覧もお願いしている。時には地域の方が畑で採れた野菜やお米を持って来て下さる事もある。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	南	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には自治会長、民生委員、婦人会長などが参加されており、会議で認知症についてを議題にあげて病気の理解や支援方法を実例を交えてお話をする機会を設けている。		
3	北	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議を通じて、地域の代表の方に認知症の理解を深めてもらっている。講義や事例を通して認知症の方への関わり方や具体的な支援方法もお伝えしている。		
4	南	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	勉強会で実施する意義を理解してもらっている。年に1度職員全員が自己評価を行っている。自己の反省から「私の目標」を決めて取り組み見直しを行っている。また、評価結果から事業所の目標達成計画を立て取り組んでいる。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類に全職員が記入し、ユニットリーダーがまとめたものを回覧して、意見を聞いてまとめている。自己評価実施後、職員全員が自分に不足している項目の具体的達成目標を立て、1年間を振り返り、改善に取り組んでいる。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を立て改善に取り組んでいる。	
4	北	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	勉強会を開催し、評価の意義を理解してもらっている。全員に自己評価票を記入してもらい1年の振り返りをしてもらっている。また、自己評価後にアンケートを行い各自の目標を立て取り組んでもらっている。評価結果から事業所の目標達成計画も立て改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、婦人会長、市役所職員、地域包括センター職員、消防職員、ご家族が参加している。利用状況や活動報告、外部評価の結果報告等について報告を行っている。自治会のお祭りの案内や、避難訓練のアドバイスを頂いたり、サービス向上に活かしている。	新たに婦人会長をメンバーに加え、2ヶ月毎に開催している。利用者の現況や事業報告、サービス提供内容、外部評価の取り組み状況について報告し、意見交換している。消防署職員による防災についてのアドバイスや「認知症と社会環境」と題した勉強会、試食会など内容の工夫をして開催し、参加者との情報交換、親睦が深まる交流に取り組んでいる。参加者から、災害時の備蓄や地震を想定した訓練、地域行事への参加の拡大などの意見や提案があり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、婦人会長、市町担当職員、消防職員などに参加してもらっている。利用状況やホーム便りにて活動報告を行っている。自治会のお祭りへのお誘いや防災訓練のアドバイス等がありサービス向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役職員や地域包括支援センターの方が参加されており会議で情報交換を行っている。地域ケア会議や市主催の勉強会等にも参加している。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話での問い合わせや申請書類や事故報告提出時などに直接出向いて、相談をして助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や地域ケア会議、地域連携会議（認知症を地域で支える医療、福祉の関係者による）参加時に情報交換や市のサービス内容、困難事例の相談等を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役職員や地域包括支援センターの方が参加されており会議で情報交換を行っている。地域ケア会議や市主催の勉強会等にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除についてのマニュアルがあり事業所の理念を作っている。勉強会では具体的な行為について学ぶ機会があり、正しく理解した上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、事業所独自の身体拘束排除のための指針を作成している。職員は、年1回の法人研修や内部研修で学習し、抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が直接指導している。玄関は施錠しないで、外出したい利用者には一緒に出かけたり、気分転換を図るなどの工夫をして拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しており身体拘束排除の事業所理念も作っている。勉強会ではスピーチロックも含め具体的な行為を学び、身体拘束をしないケアを実践している。リスクマネジメントにも取り組んでいる。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、法律を学ぶ機会も設けている。ケアの見直しをして意識を高め業務についている。不適切な対応や言葉使いがないようお互いが注意し合っている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会では法律も含め高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。接遇研修では、言葉使いについても学び、利用者様が不快な想いをされない様に努めている。日頃からお互いが注意し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会がある。現在利用されている方はおられないが対応できるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会がある。現在利用されている方はおられないが対応出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	南	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて重要事項説明書及び契約書についての説明を行い、その都度質問を受けながら入居に対しての不安や疑問にお答えしている。		
10	北	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書と契約書に沿って丁寧に声明をしている。その都度質問に答えながら話を進めている。改定の際にはあらかじめ文書にてお知らせをして同意書を頂いている。		
11	南	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時にお茶をお出ししてゆっくりお話が出来る場面作りをしている。意見や要望が出た時には連絡帳などで共有しすぐに対応出来るようにしている。	苦情、相談の受付体制や処理手続きを定め、外部機関や第三者委員を明示して、契約時に家族に説明し、玄関に掲示して周知している。面会時や電話、咲花メール、運営推進会議時、年3回の家族会、年2回のアンケート、事業所行事等参加時に、家族から意見や要望を聞いて、個人連絡帳に記録して職員間で共有している。利用者の日常の様子をもっと知りたい、介護記録に専門用語や略語を使わないで欲しい、整容への気配り等の意見を反映させている。	
11	北	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・相談窓口があり、重要事項説明書等に明記している。第三者相談窓口も設置している。日頃から面会時にはお茶をお持ちし日常会話から要望や相談が聞けるような雰囲気を作っており、要望があればその都度対応し、苦情につながらないようにしている。要望等は個人連絡帳に記入し職員で共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング時で、職員が意見を出せる場になっている。お粥専用の炊飯器の購入に至っている。細かい業務の流れも職員の意見を聞きながらその都度改善をしている。	管理者は、月2回のミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日ごろから直接声をかけるなど、意見を言いやすい雰囲気づくりをして、職員の意見や提案を聞いている。お粥専用の炊飯器の購入や安全のための風呂場のマット購入、備え付棚の除去、服薬マニュアルの変更、食事の際の席の変更、資格取得のための勤務調整等の意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングは職員の意見や提案が出せる機会となっている。細かい業務の流れも職員の意見を反映し働きやすいように随時変更している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当がある。法人の勉強会はポイント制となっており、ボーナスに反映されるようになっている。月に2回希望休がとれるようになっている。勉強会の講師になってもらったり、外部研修に参加した後は、発表の場を設け向上心を持って働けるようにしている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当がある。月に2回希望休が取れるようになっておりその他でも資格取得や家庭の事情等を考慮して勤務調整をしている。法人内の研修はポイント制となっておりボーナスに反映されるようになっている。また、月2回のミーティングの1回は職員が順番で議長を務めたり、研修の講師になってもらったり各自が向上心を持って働けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営推進会議には市役職員や地域包括支援センターの方が参加されており会議で情報交換を行っている。地域ケア会議や市主催の勉強会等にも参加している。	外部研修は情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、ユニット会議で報告を行ない、全職員で共有している。法人研修は勤務の一環として月2回、食中毒や接遇、プライバシー保護、誤嚥予防、腰痛症等の内容で、全職員が受講できる機会を設けている。内部研修は年間計画を立てて、月1回、管理者や計画作成担当者、看護職員、外部講師等が講師となって、身体拘束や感染症、緊急時の応急処置、認知症ケア等の内容で実施している。新人研修では、「一人立ちチェックリスト表」を活用し、3ヶ月間をかけて介護の知識や技術を学べるように計画している。資格取得の支援もしている。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の法人研修と月1回のGH勉強会がありそれぞれ参加出来るように勤務調整をしている。会議の際や勤務中でも不安なことや技術不足のところはその場でトレーニングを行って。新人については「ひとり立ちチェック表」に沿って3ヵ月間で技術習得ができるように目標を持って取り組んでもらっている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	マニュアルを作成しており身体拘束排除の事業所理念も作っている。勉強会ではスピーチロックも含め具体的な行為を学び、身体拘束をしないケアを実践している。リスクマネジメントにも取り組んでいる。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修に参加し、お互いに情報交換をしている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16 南	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談や見学の機会を設けている。その際に本人の不安や要望をお聴きしお話をすることで安心して頂けるように努めている。			
16 北	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前は見学や面談の機会を設けている。その際に本人の不安や要望をお聴きし、入居後も安心して過ごして頂けるように努めている。			
17 南	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応しており、契約時には時間をかけてお話をしご家族の不安や要望をお聴きしている。			
17 北	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人相談員が対応している。管理者も含めご家族の困っていることや不安、要望をお聴きしている。契約の際には時間をかけて説明をし安心してサービスが受けられるように努めている。			
18 南	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族がまず何を必要とされているのかを相談員・管理者が連携をとり生活の場としてグループホームが良いのか、どのような支援が必要なのか他のサービス利用を含めた相談を行っている。			
18 北	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人相談員と管理者が現状を把握し、生活の場としてグループホームが良いのか、また他のサービス利用も含めて検討している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	南	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から台所作業や掃除等その方が出来る事を一緒にしていただきその都度感謝の気持ちを伝えている。日舞の振り付けを教わったりご先祖様を敬う気持ちを教えてもらったりしている。利用者様からねぎらいの言葉をもろうこともある。		
19	北	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から台所仕事や掃除洗濯等と一緒にしている。漬物やかき餅と一緒に作ったり、新聞紙でゴミ箱と一緒に作って下さる方もおられる。花の管理やおしゃれの仕方を利用者様に教えていただく事もある。風呂場の足ふきマットを作って下さったりもしている。お互いに日頃から感謝の気持ちを持って共に過ごしている。		
20	南	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や事業所の行事に参加していただき、共に過ごせる時間を作っている。認知症が進んできてもお話がスムーズにいくよう職員は声かけのアドバイスをしたりしている。		
20	北	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年3回家族会を開催している。事業所の行事にも来て頂いたり交流の場を設けている。面会時には認知症の方の対応に悩まれているご家族にアドバイスをしたりもしている。		
21	南	(10) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや行事に参加したときには友人や教え子様と懐かしそうにお話されている。外出する時にはその方の馴染の場にお連れするようにしている。ご家族からお手紙が届いたり電話口に出て頂いたりしている。	家族や親戚の人、友人、知人、趣味の会、教え子の来訪があり、電話の取次ぎや手紙の支援をしている。美容院の利用やスーパーでの買い物、訪問マッサージ、地域行事への参加、近所の人とカラオケに出かけたり、生家や自宅付近へのドライブに出かけている。家族の協力を得ての墓参りや法事への出席、お盆や正月の外泊、外食、旅行に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21	北	(10) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や近所の友人、教え子等が面会に来られている。ドライブや外出をする時には馴染の場所や馴染みの人と会える場所にお連れしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	南	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	廊下にはテーブルとイスを用意し気の合う方同士でゆっくり出来る空間がある。利用者様の相性を考えその都度席替えもしている。		
22	北	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は相性を考えて随時席替えをしている。時に利用者様同士で体を気遣う場面もあり職員は安全を考慮しながら見守りを行っている。		
23	南	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にはメッセージ付きの思い出アルバムをお渡ししている。入院や法人の事業所に移られた方に会いに行き本人やご家族とお話を聴いたりしている。		
23	北	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にはメッセージ付きの思い出アルバムをお渡ししている。入院や法人の事業所に移られた方に会いに行き本人やご家族とお話を聴いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11) 南	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つぶやきシートに日頃ふとつぶやかれた言葉や状況を記入しその方の想いに添えるように努めている。ケース記録には本人の思いや意向に紫のマーカーを引き、ケアプランの見直しの参考にしている。	入居時の事業所独自のアセスメント表や情報提供書の活用その他、面会時等での家族からの情報や本人の思いなどを「寄り添い票」に記録し、日々の関わりの中でのふと漏らした言葉や願いを「つぶやきシート」に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの聞き取りや職員間で話し合い、本人本位に検討をしている。	
24	(11) 北	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のふとした言動はつぶやきシートにメモをし思いや意向を把握できるようにしている。またケース記録の意向・想いの部分には紫色のマーカーを引きケアプランの見直し時期や行事計画などに反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	南	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には情報提供書や本人ご家族からの聞き取りを行っている。入居後は面会時などにお話を伺いアセスメント表や寄り添い表に追記しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25	北	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には情報提供書をもとに本人ご家族にお話を聴き暮らしの把握をしている。入居後も生活をする中で暮らし方や嗜好等を把握し寄り添い表に追記している。		
26	南	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子はケース記録に記録している。3か月に1度アセスメント表の見直しを行い、ケアの一覧表はミーティングの時に随時見直しを行い現状の把握に努めている。		
26	北	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子はケース記録に記入している。申し送りでは特変以外でもその日の様子や表情など細かく引き継ぎをしている。アセスメント表は心身の状態を3か月に1回見直しをしている。ケアの一覧表は随時話し合い変更をしている。		
27	南	(12) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリングを行い、アセスメント表の見直しとケアカンファレンスを行っている。面会時には本人・ご家族にご要望をお聴きし現状に即した介護計画を個別に作成している。看護師からのアドバイス等も計画に反映している。	管理者や計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心にケアカンファレンスを随時行い、利用者や家族の思いや意向、主治医、訪問看護師、リハビリ担当者等の意見を参考に職員全員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、本人の状態や状況に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状にあった介護計画を作成している。	
27	北	(12) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回見直しをしている。本人ご家族にお話を伺い計画作成担当者、管理者、担当職員でケアカンファレンスを行っている。健康面では訪問看護師からのアドバイスも反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	南	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	つぶやきシート・ケース記録・個人連絡帳・生活の記録に記録し情報を共有している。ミーティングやケアカンファレンス時に気づきや工夫の意見交換をして実践に活かしている。		
28	北	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践はケース記録に記入している。ケアプラン実践は青字で記入し、本人ご家族の要望に沿った支援を行った時にはマーカーで色分けをし見直し時に分かりやすくしている。また、気づきや工夫は個人連絡帳に記入し情報を共有し統一した対応ができるようにしている。		
29	南	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会で県外へ日帰りバス旅行に行っている。叙勲を受けた方には応接室を使用して頂き、叙勲式を行った。週1回の訪問診療と訪問看護があり体調不良の早期発見・対応もできている。希望があれば送迎付きの医療リハビリがマンツーマンで受けることもでき、1階にあるレッドコードを使って週1回運動してもらっている。		
29	北	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会では県外にバス旅行にも行っている。週に1回の訪問診療と訪問看護、月に4回の歯科医等による口腔ケアのサービスもあり体調不良の早期発見や看取り介護においても医療との連携がスムーズに取れるようになっている。		
30	南	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長の声かけにより地域の方々が事業所の行事のお手伝いに来られている。地域のボランティアによる日舞やコーラスなども定期的に開催している。		
30	北	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の餅つきには地域の方が手伝いに来て下さっている。地域のボランティアによる踊りやコーラス等も定期的に開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13) 南	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの眼科や精神科、歯科等に受診してもらっている。現在は全員が協力医療機関にかかっている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期受診や週1回の訪問診療がある他、夜間や緊急時の対応をしている。週1回、訪問看護師による状態観察があり、アドバイスを受けたら、かかりつけ医への情報提供をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診後は、家族と職員が情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31	(13) 北	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	耳鼻科や精神科はいままでのかかりつけ医に受診されている。現在は全員が協力医療機関にかかっている。		
32	南	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時や朝礼時の病状報告等で情報を伝えその都度相談している。勉強会では急変時の対応や怪我の処置等の方法を教えてもらっている。		
32	北	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護があり随時相談やアドバイスを受けている。勉強会では急変時の対応や怪我等の応急処置の仕方などを教えてもらっている。		
33	南	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し情報提供に努めている。相談員を通して主治医やご家族と相談し認知症が進行しないように早期退院に心掛けている。		
33	北	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し情報提供に努めている。相談員を通して主治医やご家族と相談し認知症が進行しないように早期退院に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14) 南	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りの指針を作成している。契約時には説明と指針をお渡しして同意を得ている。	重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に本人、家族に説明して同意を得ている。重度化した場合は、段階を踏まえて家族、医師、関係者と話し合い、方針を共有し、書面で同意を得て医療機関への移設も含めて支援している。看取りの希望があればその都度勉強会を行い、介護体制を組み替えて本人や家族の意向に添うように取り組んでいる。看取りの経験がある。	
34	(14) 北	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りの指針を作成している。契約時にお話をして指針もお渡しをしている。体調不良になられたら早い段階で主治医を交えて終末期のあり方について話し合いを行い看取り介護の同意書ももらっている。見看取り介護では状態変化の都度ご家族に連絡を行い、本人やご家族の意向をその都度確認しながら今後の方針を決めている。		
35	(15) 南	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎年消防署職員による普通救命講習を受講している。勉強会では急変や事故発生時の対応、応急手当の方法を学び実践に備えている。すべての職員は応急手当推進委員会による研修やミーティング時に訓練を行っている。	インシデント報告書に発生の状況や原因を記録し、その日の職員で話し合い、全職員に回覧して、共有し、月1回のミーティング時には再度、全員で話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人研修や内部研修、応急手当推進委員会等で、看護職員等による応急手当や初期対応の定期的な実技訓練を行い、実践力を身につけている。	
35	(15) 北	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成している。事故発生時は速やかに報告書を提出しミーティング等でインシデント検討を行い再発防止に努めている。また、応急手当推進委員会があり急変時の対応の訓練を職員全員が行っている。また、勉強会やミーティング時に応急手当や誤嚥時の対応などの訓練を日頃から行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年3回防災訓練を行っている。全事業所が役割分担を行い夜間想定、地震想定で計画を立てている。訓練の際には防災設備や避難ルートの確認をし利用者様も全員参加している。地域の方にも運営推進会議を通して防災についての話し合いや災害時の協力もお願いしている。事業所の避難訓練には地域の方に来ていただいている。	年3回、隣接している法人施設と合同で、消防署の協力を得て昼夜の火災、地震を想定した避難や消火、通報訓練、救出方法などを地域の人や利用者、運営推進会議メンバーと一緒に実施している。地域に自主防災組織を立ち上げる話し合いも始まっており、緊急連絡網や備品等の準備など今後、具体的な地域との協力体制に取組むこととしている。	・地域との協力体制の構築
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年3回夜間想定、地震想定で防災訓練を行っている。各事業所が役割分担を行い構成・検証・研修を順番に担当している。避難訓練は利用者様や地域の方も参加されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を大切にしてい関わりを持っている。トイレの声かけはプライバシーに配慮している。介助時はひざ掛けを用意し無駄な露出は避けるようにしている。大きな声で引き継ぎはしないようにしている。	法人研修や内部研修(プライバシー保護、個人情報保護、接遇等)で学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解しており、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者の個別情報は保管し、守秘義務は遵守している。	
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修では目線や言葉使いも学んでおり人生の先輩として尊厳を大切に接している。排泄に関する声かけはさりげなく行いプライドを傷つけないように配慮している。また身体介助の際にはひざ掛け等を使用しむやみに体を露出しないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	南	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・トイレ・外出・行事等の声かけの際は選択できるような声かけをしている。言葉で表現できない方は表情等で想いを汲み取っている。		
38	北	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・トイレ・外出・行事等の声かけの際は選択できる様な声かけをしている。言葉で表現できない方は表情等で想いを汲み取っている。		
39	南	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は本人のペースに合わせて行っている。体調に配慮し希望に沿った支援を行っている。		
39	北	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は本人のペースに合わせて行っている。体調に配慮し希望に沿った支援を行っている。		
40	南	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服を一緒に選んだり、洗顔後ご自分で化粧水を付けて頂いたりしている。外出の際はお化粧をして頂いている。移動美容室では本人の希望を聞いてパーマや毛染めを娘様の美容院でパーマをかけられる方もおられる。		
40	北	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の移動美容室では本人の好みに合わせてパーマや毛染めをされている。毎日綺麗にお化粧をされてる方もおられこだわりの化粧品を持ち込まれている。その日着る服は一緒に選んでもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者様と一緒にしている。かき餅を焼いて頂いたりおかずの味見をして頂いたりもしている。嫌いなものが出た時には本人がお好きな代替品をお出ししている。季節のおやつと一緒に作ったり、誕生日会の時にはお好きな物を用意してお祝いをしている。	は盛り付けやお茶汲み、配膳、下膳、食器洗い、台拭きなど、できることを職員と一緒にしている。事業所の菜園で利用者と職員が一緒に収穫した野菜や家族、近所の人の差し入れの旬の食材を使って一品加えたり、味噌汁に入れたりしている。毎年、利用者と職員と一緒に梅干、梅酒、梅ジュース、かりん酒、らっきょ、漬物づくりをして、食卓に上がることを楽しみにしている。季節に応じたおやつ作り(桜餅、柏餅)や行事食(おせち料理、恵方巻き、ソーメン流し、ビヤホール、ローストチキン、餅つき等)、本人の希望に添った誕生日食、ウッドデッキでのお茶、喫茶店や外食など、食事が楽しみなものになるように工夫している。	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは一緒にしている。食事は3食とも厨房から届いているが差し入れの野菜や畑で採れた野菜で利用者様と一品作ることもある。季節行事ではおやつ作りをしたり誕生日会にはお好きなものを食べに外食に行くこともある。らっきょうや大根の漬物など一緒に作り出来上がりを楽しみに待っておられる。看取りの方には最期まで口から食事が摂れるように果物のしぼり汁や本人が食べやすいお好きな物を用意している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食管理栄養士が立てた献立を提供している。刻み食やむせ込みのある方には水分にトロミを付けてお出ししている。水分量は正の字をつけて1日の摂取量を把握している。水分が摂りづらい方には牛乳寒などをお出ししている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は生活の記録に記入し摂取量を把握している。また、体重増加がみられる方や持病がある方は食事量を調節したり、水分が摂りづらい方には声かけのタイミングを検討したりアイスキャンディーをなめてもらったりしている。食事形態も刻み・ミキサー・お粥等その方の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	南	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入眠前にはその方に応じた口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎の予防に努めている。居室での歯磨きに拒否がある方は入浴時に歯磨きをして頂きポリドントに浸けたりしている。		
43	北	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入眠前にはしっかりと口腔ケアを行っている。口臭が気になる方は食後マウスウォッシュをしている。週に1回協力歯科医療機関の医師等に口腔ケアをしてもらっておりケアのアドバイスももらっている。		
44	南	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し時間を決めトイレの声かけを行い失敗がない様に支援している。その方の排泄のサインを見つけトイレでの排泄が出来るようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄のリズムや習慣を把握して言葉かけの工夫や誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立が継続するように支援している。	
44	北	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時や状態変化があった時には排泄チェック表を使用してその方の排泄状況の把握に努めている。それぞれの排泄のサインを見逃さないようにしてトイレ誘導を行い出来る限りトイレで排泄が出来るように支援している。		
45	南	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やオリゴ糖を使用し便秘予防に取り組んでいる。生活の記録で排便状況を把握し必要であればホットパックやマッサージを行っている。		
45	北	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りや排便チェック表で排便状況を把握している。便秘傾向の方には乳酸飲料を飲んで頂いたりプルーンをお出ししたりしている。のの字マッサージやホットパック、ラジオ体操をしたりして便秘予防に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	14時～20時の間で入浴が出来るようにしている。拒否がある方にはお知らせプレートをお見せしたりしてスムーズに入って頂けるように工夫している。	入浴時間は14時から17時までの間と19時から20時までの間、希望すれば毎日入浴可能で、午前中にも入浴できる。プライバシーに配慮して個室とし、利用者の希望に応じた湯かげんで入浴剤を使ったり季節感を味わえるようゆず湯や菖蒲湯にするなど、ゆったりとくつろいだ入浴が出来るよう支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしている。入浴したくない人には、言葉かけの工夫や職員の交代などの工夫している。	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	14時～20時で入浴時間を設けている。入浴剤を入れて香りも楽しんで頂いている。入浴は声かけをし本人の希望に合わせて入って頂いている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でもリビングやソファで足置台やひざ掛けを用意してゆっくり休んで頂けるようにしている。空調に気をつけたり湯たんぽを使用するなどして快適に眠れるように支援している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや廊下にはゆったりできるソファやひざ掛けを用意しいつでも休息できるようになっている。天気が良い日は日向ぼっこをしながら休まれている。また、冬場は湯たんぽを使用したり寝る前に温かいココアを飲んでもらったりもしている。居室の空調管理もこまめに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	南	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活の記録ファイルに薬情を取り付けいつでも副作用や用法等を確認できるようにしている。変更時は個人ノート・ケース記録にも記入し情報が共有できるようにしている。		
48	北	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活の記録ファイルに薬情がとじてありいつでも効用や副作用が確認できるようになっている。与薬マニュアルがあり間違えのないように服薬介助を行っている。		
49	南	(21) ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔お好きだった歌謡曲をリビングに流したり、スポーツ観戦のお好きな方にはスポーツ番組を見て頂いたり、晩酌が日課であった方には夕食時焼酎のお湯割りをお出ししている。校長先生をされていた方に誕生日会の祝辞を頼んだりしている。美容師をされていた方は他の方のマッサージをして下さっている。	テレビ視聴、ラジオを聴く、新聞や雑誌、趣味の本を読む、習字、歌を歌う、折り紙、ぬり絵、五目並べ、カルタ、カラオケ、切り絵や貼り絵での壁画づくり、絵を書く、俳句を作る、花を活ける、祝辞を書く、晩酌をする、ラジオ体操、船こぎ体操、じゃんけん大会、レッドコード、野菜づくり、野菜の収穫、芋ほり、畑の水やり、赤飯の日、恵方巻きづくり、おやつ(桜餅、柏餅)づくり、らっきょや梅干づくり、餃子づくり、餅つき、寒餅づくり、ビヤホール、ソーメン流し、スイカ割り、ゴミ袋づくり、足拭きマットを縫う、献立表を作る、メダカの餌やり、モップ掃除、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、散歩、買い物、季節の行事(花火大会や運動会、ピアノコンサート、誕生日会、夏祭り、クリスマス等)など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
49	北	(21) ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の管理、掃除、整理整頓など得意な方がされている。俳句がお好きな方は面会に来られたご家族の先生になられることもある。橋の設計をされていた方に橋の写真集をプレゼントしたり、日めくりカレンダーを毎日の日課にしている方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の桜を見に散歩に出たり、近所の本屋に歩いて行ったり、コーヒーがお好きな方と喫茶店に出かけたりしている。ご家族の方と県外にドライブに行かれたり外出に行かれたりもされている。	周辺の散歩や買い物、喫茶店に行く、季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、コスモス、紅葉等)、ドライブ(東行庵、寝太郎公園、江汐公園、くすくすの湯、自宅や生家他)、保育園行事(運動会、納涼祭、節分、餅つき)、お雛様巡り、初詣、節分祭、花火大会の他、家族と一緒にバスを使って門司港レトロへ日帰り旅行をするなど、希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は施設周辺の散歩をしている。お花が買いに行きたいと言われたら市場へ行ったり、好きなおやつをスーパーに買いに行ったり食べに行ったりもしている。また、ご家族と県外へドライブに行かれたりする方もおられる。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布を持たれている方は時々枚数を確認して安心される方もおられる。買い物出た時にはお財布からご自分で支払われるように支援をしている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布を管理されている方もおられる。売店で支払いをされたりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節のはがきや手紙が届くのを楽しみにされている方もおられる。事業所に電話がかかってきた時には電話口に出てもらっている。携帯電話でご家族とお話される方もおられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられる。誕生日やお正月には葉書が届いたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、廊下には季節のお花を活けている。たくさんある窓からは朝日や夕日を眺めることができ、気候の良い時には中庭の全面オープン窓を開け心地よい風を感じて頂いている。掃除や換気も毎日行い、トイレの匂いや汚れが放置されないようにしている。	玄関は季節の花と利用者の作品が飾っており、室内や廊下、トイレの壁面に絵画やアンティークな装飾品を飾った共用空間となっている。中庭のウッドデッキを囲むように2つのユニットが回廊式につながるようになってい。里山や畑、建物、新幹線が走る様子などの風景が四方の窓から見え、季節の移り変わりをどこからでも眺めることができる。キッチン是对面式で広く、利用者が食事の準備や後片付け、おやつづくりがゆったりとできるようになっている。リビングにはテレビやソファ、机、イスを配置し、廊下のソファや椅子とともに、利用者が思い思いの場所でくつろげるようになっている。ウッドデッキでは、地域の人を招いての行事や外気浴ができるようになっている。トイレ、洗面所、浴室は清潔に整頓しており、温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング廊下には季節のお花を活けている。たくさんある窓からは朝日や夕日を眺める事ができ気候が良い時には中庭の全面オープン窓を開け心地よい風を感じて頂いている。掃除や換気も毎日行い、トイレの匂いや汚れが放置されないようにしている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはゆつくりできる椅子を置き、気の合う方とおしゃべりを楽しまれている方もおられる。また、新幹線や夕日の見える窓辺にはテーブルとイスを置きコーヒーを飲みながら違うユニットの方とお話交流の場となっている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはゆったり出来るソファを置き気の合う方とおしゃべりを楽しまれている方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)南	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にお部屋づくりのお話をして新しいものではなく家で使い慣れたタンスやテーブルを持って来ていただいている。昔の写真や趣味の水墨画などの作品を飾っておられる方もおられる。叙勲を受けた方は賞状を掲げ毎日眺めて頂いている。	カーペット、ベッド、タンス、衣装ケース、鏡台、化粧品、机、椅子、時計、布団、衣類、帽子、趣味の本、雑誌、ぬいぐるみなど使い慣れた物や好みのものを持ち込み、家族写真や絵画、鉢植え、造花、カレンダー、自作品の水墨画や習字、下げもん飾りなどを飾って居心地良く過ごせるように工夫している。	
55	(24)北	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にお部屋づくりのお話をして新しい物ではなく家で使い慣れたタンスや鏡台を持って来て頂いている。昔の写真やご自分で作られたお人形を持って来ている方もおられる。		
56	南	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は全てバリアフリーとなっている。広い廊下には手すりがあり安全に歩行が出来るようになっておりトイレにはその方の能力に合わせ使用ができる介助バーが設置されている。また、トイレやお風呂の表示は高さや大きさや読み方を工夫し分かりやすくしている。中庭では洗濯物が干せるようになっている。		
56	北	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は全てバリアフリーとなっている。広い廊下には手すりがあり安全に歩行が出来るようになっておりトイレにはその方の能力に合わせ使用が出来る介助バーが設置されている。また、トイレやお風呂の表示は高さや大きさを工夫し分かりやすくしている。中庭では洗濯物を干したり花木の世話が出来るようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム咲花

作成日： 平成 26年 10月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	災害における地域との協力体制が不十分である。	災害時における地域の協力体制が出来る。	運営推進会議の参加者（近隣の自治会長、民生委員、家族代表、市の担当職員等の方々）に防災についての意見をいただいたり、実際に施設の避難訓練に参加していただく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。